

はじめに



東京都は、「東京都平和の日条例」で、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認するとともに、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施しております。

令和5年度は、令和6年3月10日、東京都庁において「第34回東京都平和の日記念式典」を開催いたしました。

記念式典の冒頭に東京大空襲をはじめ戦災で亡くなられた方々を追悼し、世界の恒久平和を願って黙とうを行い、厳粛な雰囲気の中で式典が執り行われました。

式典に引き続き、東京都交響楽団による記念演奏を行い、「追悼と平和への祈り」の気持ちを新たにしました。

また、記念行事の一環として、東京芸術劇場、三鷹市公会堂さんさん館、調布市文化会館たづくりにおいて、「東京空襲資料展」を開催いたしました。

本報告書は、今回の東京都平和の日記念行事についてまとめたものです。

本書が平和の大切さを確認していただくための一助となれば幸いです。

結びになりますが、今回の東京都平和の日記念行事の実施にあたり、御協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。


令和6年3月

東京都




目次

はじめに	1
第一章／記念式典	3
概要	4
主催者挨拶	6
東京都知事 小池 百合子	6
東京都議会議長 宇田川 聡史	7
来賓挨拶	8
在日外交団代表	8
駐日サンマリノ共和国特命全権大使 マンリオ・カデロ閣下	
東京空襲被災者代表 島津 好江様	10
式典風景	12
記念演奏	15
第二章／普及啓発	19
告知	20
第三章／関連事業	25
東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑	26
「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」花壇デザイン画募集	27
東京空襲資料展	32
東京空襲資料展 チラシ	34
東京空襲資料展 展示品一覧	36
東京空襲写真パネル展示	41
第四章／資料	43
アンケート用紙	44
アンケート集計結果	45
東京都平和の日条例	51
東京都民平和アピール	52



第一章
記念式典





概要

第34回東京都平和の日記念式典

日時 令和6年3月10日(日)
午後2時～午後3時15分

場所 東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場

プログラム	午後1時00分	開場・受付
	午後2時00分	記念式典
	午後2時30分	休憩
	午後2時45分	記念演奏

※インターネット中継（東京動画）を実施

式次第

* 黙とう

* 国歌斉唱

* 主催者挨拶

東京都知事	小池 百合子
東京都議会議長	宇田川 聡史

* 来賓挨拶

駐日外交団長	駐日サンマリノ共和国特命全権大使 マンリオ・カデロ閣下
東京空襲被災者代表	島津 好江様

Memorial Ceremony Program



The 34th Tokyo Metropolitan Peace Day Memorial Ceremony

■ **Date and time** Sunday, March 10, 2024 2:00PM - 3:15PM

■ **Venue** Tokyo Metropolitan Government Building No.1
5th Floor, Main Conference Hall

■ **Program** 1:00PM Open
2:00PM Memorial Ceremony
2:30PM Intermission
2:45PM Memorial Concert

※ Live broadcast on the Internet
(Tokyo Metropolitan Government Official Video Channel)

Memorial Ceremony

Silent Prayer

National Anthem of Japan

Greetings from the Organizers

Governor of Tokyo

KOIKE Yuriko

President of the Tokyo Metropolitan Assembly

UDAGAWA Satoshi

Messages from the Distinguished Guests

Dean of the Diplomatic Corps in Japan

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Republic of San Marino

H.E. Mr. Manlio CADELO

Representative of the Tokyo Air Raid Victims

Ms. SHIMAZU Yoshie

主催者挨拶



東京都知事

小池 百合子

本日ここに、御遺族の皆様、都民の皆様、御来賓の皆様をお迎えいたしまして、「第34回東京都平和の日記念式典」を執り行うに当たり、御挨拶を申し上げます。

先の大戦で東京は、度重なる空襲により甚大な被害を受けました。中でも、昭和20年3月10日、下町地区を中心に襲った大空襲では、一夜にして10万人ともいわれる尊い命が奪われました。

焦土と化した、当時の悲惨な光景と、家族や友人を失った深い悲しみは、今なお、被災した方々の心の中に、重く深く、刻み込まれています。

私たちが今、享受している平和と繁栄は、多くの尊い犠牲と先人たちの懸命の努力の上に築かれたものであります。戦争の悲惨な記憶を、しっかりと次の世代に語り継ぎ、平和の大切さを伝えていかなければなりません。

東京都は、平和の意義を確認し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、3月10日を「東京都平和の日」と定めました。都立横網町公園内には、祈念碑を建設し、その内部には、「東京空襲犠牲者名簿」を納めております。

本年は、新たに61名の方々のお名前を追加し、合計81,489名の方々が掲載されました。

世界に目を向ければ、ロシアのウクライナ侵攻は長期化し、中東情勢も先行きが見えません。そして、多くの尊い命と生活が戦禍の中で失われています。

自然災害や気候危機の脅威も、一層、深刻なものになってまいりました。この難局を乗り越え、平和な世界を未来に引き継いでいくことは、私たちの重要な責務でございます。

私は都知事として、日本の首都であるこの東京を、誰もが自分らしく暮らせる、希望あふれる都市へと進化させ、未来の子供たちに引き継いでまいります。そして、世界の持続可能な発展にも貢献していくことを、お誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられた方々の御冥福と御遺族の皆様の御健勝、御多幸を心からお祈りし、御挨拶といたします。

主催者挨拶



東京都議会議長
宇田川 聡史

本日ここに、ご遺族をはじめ、平和を願う都民の皆様とともに、第34回「東京都平和の日」記念式典を執り行うに当たり、東京都議会を代表し、挨拶を申し上げます。

先の大戦が終わり、早や79年の歳月が過ぎ去ろうとしています。国の内外において、多くのかけがえのない命が失われましたことは、永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。東京は、度重なる空襲を受け、とりわけ昭和20年3月10日の大空襲では、下町を中心とした地域が一夜にして焦土と化し、多くの都民が犠牲となりました。ご遺族の方々のご心中を拝察するとき、万感胸に迫るものがございます。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、こうした重く尊い犠牲の上に築かれてきたものであります。私たちは、改めて歴史を教訓とし、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぎ、平和を願う心を未来へと継承していかなければなりません。

しかし、世界に目を向けますと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻やパレスチナのガザ地区での軍事衝突など、今なお、平和を脅かす出来事が続いています。今こそ、国際的な相互理解と信頼関係をこれまで以上に深め、世界が直面する様々な課題に共に取り組み、平和な世界を実現していくことが強く求められています。

都議会といたしましても、今後とも、すべての都民が安全に、心穏やかに暮らすことのできる東京を実現することが、犠牲となられたの方々に対する私たちの責務であることを深く胸に刻み、より一層の努力を尽くしてまいります。

結びに、戦災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご列席の皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



駐日外交団長
駐日サンマリノ共和国特命全権大使
マンリオ・カデロ閣下

各国の大使閣下、小池百合子東京都知事、そしてご来賓の皆様。はじめに、外交団を代表し、能登地方における災害に関して深い哀悼の意を表するとともに、心よりお悔やみを申し上げます。

日本には、自然災害や戦争に立ち向かってきた非常に長い歴史と経験があります。縄文時代の昔から、日本は平和的で環境意識の高い国としての遺産を受け継いできました。これまでの私のささやかな経験からも、日本人は歴史的に平和を愛する国民で、さまざまな状況においても、一貫して寛容な姿勢で、平和的な妥協策を示してきたとお見受けします。

多くの場合、戦争を招くのは国の指導者や独裁者の貪欲さだけでなく、満足できる妥協策が見いだせなかったことが原因ともなります。もちろん、人や国が妥協策を見出すには、譲歩をすることが必要ですが、それは、不必要な戦争を防ぎ、無数の命を救い、多くの人間の悲しみを防ぐ上で極めて重要です。そして何より、長きにわたる後悔や遺恨を避けることにもなるのです。

世界の多くの人々は、地球上の204ヶ国は戦争の可能性を完全に排除する努力を充分にはしておらず、代わりに行事などに過剰な資金を投入していると考えています。こうしたものは時には武器を使用しない穏やかな戦争のようなものであったり、人類にとって優先順位から見ると本当には必要でないものであると考えられています。

私は、日本は災害の対応力において、特に強度の逆境に直面したときにこそ強靭さ、そして不屈の精神を示してくる、最も優れた国であると固く信じています。このことは広島や長崎、東京などで起きた歴史的な出来事が証明しています。個人的に、そうした災難に直面した際の日本人の忍耐力、対応能力、優れた組織力、これにはいつも感銘を受けています。

もちろん日本のような優れた組織力のある国ばかりではありませんが、日本は世界の平和と調和を推し進めるリーダーとなりうるでしょう！世界最大の都市であるこの東京を素晴らしい運営を行い、安全で快適な毎日の暮らしを享受している日本、その国民、特に小池都知事に敬意を表し、賞賛したいと思います。

ご清聴ありがとうございました。我々は一丸となっていかなる紛争も回避し、恒久的な平和に向けて努力していこうではありませんか。

Messages from the Distinguished Guests



Dean of the Diplomatic Corps in Japan
Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Republic of San Marino

H. E. Mr. Manlio CADELO

Esteemed Ambassadors, Her Excellency Governor Koike, ladies, and gentlemen, first of all, on behalf of all my distinguished colleagues, I want to share my deepest condolences and heartfelt sorrow for the natural disaster in the Noto Region.

Japan has a very long history and experiences in dealing with natural calamities and wars. Dating back to the Jomon era, Japan has maintained a legacy as a peaceful and ecologically conscious nation. The Japanese people, in my humble experience, have historically been a peace lover and consistently showed openness to make peaceful compromises in a wide range of circumstances.

Most of the time, the consequences of wars are not only the greediness of a country's leader, dictator but also from the failure to find a satisfactory compromise. Of course, whenever people or countries decide to reach a compromise, these sacrifices are crucial in preventing unnecessary wars, thus saving countless lives and sparing much human grief. Above all, they help avoid the long-term consequences of regret and resentment.

Many people around the world believe that the 204 countries on our planet don't make enough effort to eliminate completely the possibility of starting wars, but spend too much money on international events, which sometimes are similar to a Pacific War without weapons or not truly necessary in terms of human priorities.

I firmly believe that Japan stands as the foremost nation in managing natural disasters, demonstrating resilience and fortitude, especially in the face of extreme adversities, as evidenced by the historical events in Hiroshima, Nagasaki, Tokyo and beyond. Personally, I am always very impressed of the patience, ability and good organization of Japanese people facing such calamities....

Not all countries are obviously well organized as Japan, but Japan could be a leader in promoting Peace and Harmony worldwide! I would like to salute and praise Japan and its citizens, particularly Her Excellency Governor Koike, for the excellent management of the world's largest metropolis, which enjoys a safe and comfortable life as much as possible every day in Tokyo.

I thank you all for your attentive presence. Let us collectively strive to avert any form of conflict and work together towards enduring peace. Respectfully yours, Ambassador Manlio Cadelo, Dean of the Diplomatic Corps in Japan, REIWA SIX March 10th.

Goseichou Arigatou Gozaimasu.

来賓挨拶



東京空襲被災者代表
島津 好江様

皆様こんにちは。今日は本当にみんなで協力して作ったような素晴らしいお天気になりました。今日は私のような一般で空襲を受けた経験をちょっとお話したいと思います。

私は武蔵野市の片隅で昭和8年に生まれました。現在90歳と8ヶ月です。それでこんな無様な歩き方で少しでも気取って綺麗に歩こうと思ってももう戻ってはきません。

私のうちは農家だったもんですから、農地改革の前は随分年貢米が入ったんですけども、戦争が始まってからはなかなか増産増産で食料を作る。言ってもほとんど麦でした。麦はねすごい私のうち1軒です、供出に出すのが250俵ぐらい出しました。貨車で積み込んでましたね。それで旗を立てて出してましたけど、昭和19年の頃から戦争が激しくなりました、もうなんでも配給、もうお米も配給、麦も配給、それで穀物が足りないもんですから、さつまいもを随分作りました。特にさつまいも、「沖縄(100号)」って言ってすごい大きなボールみたいなのを奨励して作らされました。私のうちはなんて言うんですかね、農家としたらもう本当に大きな農家だったんです。生活の内容は、東北の方から若い衆や女中さんたちが大勢来てました。全部で30人くらいいましたでしょうかね。そんなでした。

空襲が初めてあったのが昭和18年の終わり頃ですか。空襲になってるんですけど何にも来ないんですね。なんで何にも来ないのかと思ったら、それは写真を撮りに来てて、B29が1機とか2機とか来て航空写真を撮っていったんですね。だけど飛行機の姿が全然見えないんですよ。点ぐらいきり見えないで、ただ白い飛行機雲がたなびいてましたけど、そのうちに、昭和19年になりましたら、もう毎日のように空襲がありました。その空襲はなぜかという、中島飛行機製作所というところで、エンジンを作ってたんですね。東洋一大きな製作所だと言ってました。土地を買取したのが昭和13年頃でしたけども、飛行機を作ってる初めね、第1の方では陸軍の方の製作だったんですけど、その次の年にですね、海軍の方の製作に。第1第2とありましたけどもしまいには一緒になって武蔵製作所っていうことになったんですね。周りの人たちは農家が多かったんですけども、農家の人たちはその中島飛行機に就職しました。それでどうしても行くところがない人はその近場を買ってですね住んでいましたけれども。中島製作所にはね、職さんがおりますから、農家の人たちは皆さんあの家作を作ってですね凌いでました。そういう状態でした。私のうちは農家だったもんで杉森の中で約4町分の作地があったんです。その中に家があったんですけど、突然陸軍の長い刀を下げた将校さんが10人ぐらい来ましてお座敷で会議してましたら、もう3日ぐらい後にですね、高射砲の陣地ができました。うちの畑にも、もう殆どうちの畑でしたけども(陣地が)できて、それで穴を掘ってですね、高射砲の土台作って6門高射砲が並びました。その高射砲は全部富士山の方に向いて並びました。そしたら今度兵隊さんがすぐまた来ました。兵隊さんは泊まるところがないもんですから、私の方の自宅に将校さんが何人か泊まりました。それから、兵隊さんたちは、蚕室小屋ってお蚕飼ってた小屋があったんですけど、それが7つぐらいありました。それが全部兵隊さんの宿舎になりました。ご飯炊くのは大釜って大きな釜が2つありますから、そこで新兵さんたちがご飯炊いてましたけど、お米は全部うちの方で提供したんですね。もうね、朝点呼取るんですけど

来賓挨拶



すごい行列で大変でした。

爆弾が落ちたのは11月の24日です。初めて爆弾が落ちたのも、爆撃にあったのも。初めて飛行機をたくさん見たのもそうだし学校で早く帰りなさいってあの空襲警報になったんで、列を組んで帰ってきたんですけど、私は5年生でした。そして歌を歌いながら帰ってきたんですけど、もう警戒警報になったらすぐ空襲になってしまって、そしたら目の前に爆弾が落ちたんですね。その爆弾は250kg爆弾。ごぼうの畑の中に落ちましたから、みんなであのお茶の木の影のところで伏せをしてですね、静まるのを待ってたんです。もう少し帰ればうちに着いたんですけど、親たちはうちの方に帰ってきてはいけない、学校にいなさい、その方が安全だからって言うけど、先生は 帰りなさい帰りなさいっていうので、そんな思いもしました。

私の家は爆撃にあったんですけど、私の家は兵隊さんが寝泊まりもしてたし、そこで休んだりして一緒に兵隊さんと一緒に暮らしたんです。で食料はうちの蔵の下に秘密の倉庫がありまして、空襲になっても大丈夫のように、食料、お米をですね、3年はもつって言ってました。100人で3年ぐらい持つお米を確保してたんですけども、その蔵の上に(爆弾を)落としたもんですからお米が全部出ちゃったんですね。爆弾でやられて。自宅の方はもう爆弾が11(個)落ちたんです。その頃は1トン爆弾でした。1トン爆弾が自分の家に落ちたんですけども、もう蔵が全部飛んでですね、お米が全部外に出ちゃったんです。みんなでむしろを被せててちょっと土を上には置いたんですけど、皆さんね見に来るんですよ。お米を見られたら大変だからうちの門の前に憲兵さんが2人来て、この先行ってはいけない不発爆弾があるから入ってはいけないって。不発爆弾じゃないんです、お米を兵隊さんたちが食べるお米を見せたくなくて憲兵さんが中に入れませんでした。

そんなで毎日毎日兵隊さんと一緒に暮らしてたんです。もう1か所武蔵野女子学院っていう女学校にもう200人(兵隊が)いました。その人たちは高射砲を撃つ人なんですけども、高射砲陣地にやられた時に、6門のうち3門が飛んだんです。その高射砲3門と一緒にあの飛んだ兵隊さんがですね、私のうちの爆撃でもう穴だらけで土だらけですすごいところになんか白いものがこう固まって置いてあるように散らばってたんです。私の祖父がその白いもの早く拾いなさいって言うんで拾ったんですけど、ペタペタしてて重くて、後ろに2杯ばかりありましたけど。私は5年生だったけども、あの上の方の白いの持ってきなさいって言われて、その時に初めて、あ、人の骨なんだなっていうのが分かったんですね。肉も血も何もなくて骨だけになってちょうど理科室の標本みたいになった骨がですね、土の上に置いたように散らばってたんです。それはね肋骨とか足も脛だけとかで、私は小学校の5年生でしたけど、その肋骨の重いことね。まだ出来たての生の骨ですから。だけど何の骨だか分かんなかったんですけど、肋骨を見て初めて兵隊さんの骨だっていうのが分かったんで。それで昼間は拾ったんですけど、夕方になって上の方見たら木にまたいっぱいくっついてたりぶら下がったりしてました。大きな木なんです。樺の木が3人くらいで抱える木が屋敷の周りに50本ばかり茂ってました。それでもう暗いから仕方ないから、そのまま。高射砲陣地の兵隊さんたちが、その木にくっついてるいろんな異物をですね、取りにかかるとはんですけども、大きくて全然登れないんですね。次の朝、のこぎりを持ってきて枝の太いのをどんどん切って落としました。腸が紐のように下がったり、ゲートルが巻きついて足がぶら下がったり、1番上の天の方には、土のうじゃないかって言ったら、手も足もない胴だけの軍服を着た兵隊さんだったんです。その陣地は最後に人数分かったんですけども、28人です。亡くなったということです。本当になんて言うのかしら、あの爆弾が爆ぜた音がですね、火薬の音が、すごくもうなびいてですね、その匂いがね鼻から、未だにもその声、香りがですね、体に染みついている状態で。こんなで本当の1ページですけどもそういう経験しました。

式典風景



会場全景



黙とう



東京都知事挨拶



東京都議会議長挨拶



在日外交団代表挨拶



東京空襲被災者代表挨拶



登壇者(主催者)



登壇者(来賓)



式典等風景



バス受付風景 (横網町公園)



バス乗車案内風景 (横網町公園)



式典受付風景



会場風景 (ロビー)



会場風景

記念演奏



第34回東京都平和の日記念演奏
「追悼と平和への祈り」
～東京都交響楽団メンバーによるアンサンブル～

日時 令和6年3月10日(日)午後2時45分～午後3時15分
場所 東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場
演奏 東京都交響楽団

プログラム

- ◆ J. S. バッハ : 主よ人の望みの喜びよ BWV 147

- ◆ クライスラー : 美しきロスマリン

- ◆ モーツァルト : 弦楽四重奏曲第 14 番 ト長調「春」
K.387 より第 1 楽章
第 4 楽章

- ◆ 岡野貞一 作曲、いとうたつこ 編曲: ふるさと

- ◆ 團伊玖磨 作曲、飯吉高 編曲: 花の街



Memorial Concert Program

The 34th Tokyo Metropolitan Peace Day Memorial Concert
"Mourning and Pray For Peace"
By the Members of the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

- **Date and time** Sunday, March 10, 2024 2:45PM - 3:15PM
■ **Venue** Tokyo Metropolitan Government Building No.1
5th Floor, Main Conference Hall
■ **Performer** Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

Program

- ◆ J.S.Bach : Jesu Joy of Man's Desiring from Cantata BWV147

- ◆ F.Kreisler : Schon Rosmarin

- ◆ W.A.Mozart : String Quartet No.14 in G Major, K.387
I. Allegro vivace assai
IV. Molto allegro

- ◆ T.Okano : Furusato "My Home Town"

- ◆ I.Dan : Hana no Machi "Town of Flowers"

記念演奏



公益財団法人 東京都交響楽団 プロフィール

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立(略称:都響)。歴代音楽監督は森正、渡邊暁雄、若杉弘、ガリー・ベルティニー。現在、大野和士が音楽監督、アラン・ギルバートが首席客演指揮者、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者を務めている。

定期演奏会を中心に、都内小中学生への音楽鑑賞教室、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での出張演奏、福祉施設への訪問演奏の他、2018年からは、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる“サラダ音楽祭”を開催するなど、多彩な活動を展開している。受賞歴に、「京都音楽賞大賞」(第6回)、インバル指揮「ショスタコーヴィチ:交響曲第4番」でレコード・アカデミー賞(交響曲部門)(第50回)、「インバル=都響 新・マーラー・ツィクルス」で〈特別部門:特別賞〉(第53回)など。

CDリリースは、上記のほか、交響組曲『ドラゴンクエスト』(全シリーズ)や『Fate/Grand Order』などのゲーム音楽まで多岐にわたる。

「首都東京の音楽大使」たる役割を担い、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。2015年11月には大野和士の指揮でヨーロッパ・ツアーを行い、各地で熱烈な喝采を浴びた。2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、《オリンピック讃歌》の演奏(大野和士指揮/録音)を務めた。

公式ウェブサイト <https://www.tmsso.or.jp/>

出演者

第1ヴァイオリン：渡邊 ゆづき

ヴィオラ：樋口 雅世

第2ヴァイオリン：伊東 翔太

チェロ：清水 詩織

記念演奏

